

(19) 日本国特許庁 (J.P.)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11) 実用新案出願公開番号

実開平4-121072

(43) 公開日 平成4年(1992)10月29日

(51) Int.Cl.⁴

G11B 23/03

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

Z 7201-5D

審査請求 未請求 請求項の数1(全2頁)

(21) 出願番号 実願平3-33529
(22) 出願日 平成3年(1991)4月12日

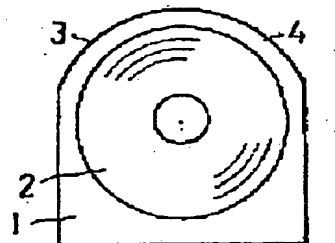
(71) 出願人 000006747
株式会社リコー
東京都大田区中馬込1丁目3番6号
(72) 考案者 椎名 直子
東京都大田区中馬込1丁目3番6号 株式
会社リコー内
(74) 代理人 弁理士 池浦 敏明 (外1名)

(54) 【考案の名称】 光記録媒体

(57) 【要約】

【目的】 ディスクを内部に収容するカートリッジの形状を工夫することにより駆動装置の小型化を図る。

【構成】 従来は矩形であったカートリッジの挿入側の隅角部に当たる部分を、内包されたディスク2の外周縁に沿う曲線で切除して円弧状の欠損輪郭部3、4を形成する。これにより、従来カートリッジの不要空間であったものが駆動装置側の使用可能空間となり、駆動装置が小型化される。



1

2

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 情報を記録再生すべきディスクをカートリッジに内包してなり、光照射により記録再生を行う光記録媒体において、前記カートリッジが、矩形状体の少なくとも1つ以上の隅角部を所要範囲にわたり切除した形状の欠損輪郭部を備えていることを特徴とする光記録媒体。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案の一実施例の光記録媒体を示す平面図である。

【図2】 図1の光記録媒体を駆動装置に装着した様子を示す平面図である。

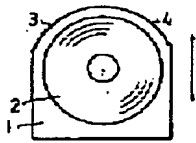
【図3】 本考案の別の実施例の光記録媒体を示す平面図である。

【図4】 従来の光記録媒体を示す平面図である。

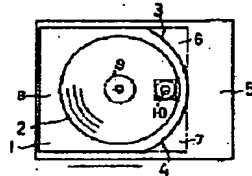
【符号の説明】

- 1 カートリッジ
- 2 ディスク
- 3、4 欠損輪郭部
- 5 駆動装置
- 6、7 駆動装置使用可能空間
- 8 カートリッジ（ローディング空間）
- 9 スピンドル
- 10 ピックアップ

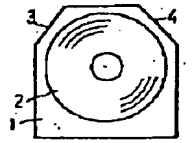
【図1】



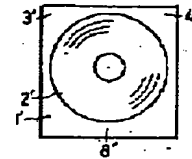
【図2】



【図3】



【図4】



【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本考案は、情報を記録再生すべきディスクがカートリッジに内包されたまま駆動装置に装着されて使用される光記録媒体に関するものである。

【0002】

【従来の技術及び考案が解決しようとする課題】

上記のような従来の光記録媒体のカートリッジは、図4に1'で示すように矩形に形成されており、その内部に円板状のディスク2'を収容している。このように、円板上のディスク2'に対してカートリッジ1'は矩形となっているため、カートリッジ1'の隅角部に不要の空間部分3'、4'が存在する。

【0003】

一方、近年、駆動装置の小型化の要求が高まっているが、上記従来のカートリッジ1'では不要空間があるにも関わらず、ローディングするための空間として確保しているので、小型化の実現の障害となっている。

【0004】

本考案は、このような従来技術の実情に鑑み、上記のごとき不要空間を減らし、駆動装置空間が有効利用できる光記録媒体を提供することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するため、本考案によれば、情報を記録再生すべきディスクをカートリッジに内包してなり、光照射により記録再生を行う光記録媒体において、前記カートリッジが、矩形状体の少なくとも1つ以上の隅角部を所要範囲にわたり切除した形状の欠損輪郭部を備えていることを特徴とする光記録媒体が提供される。

【0006】

【作用】

カートリッジの駆動装置に挿入する側の隅角部を切除して一部欠損輪郭部を形成したことにより、この部分にその分だけ駆動装置側が使用可能なスペースが増

え、駆動装置の小型化が図れるようになる。

【0007】

【実施例】

図1は本考案の実施例にかかる光記録媒体を示す平面図である。図中1は情報を記録再生すべきディスク2を内包するカートリッジであり、従来は矩形状であったカートリッジの挿入側の隅角部に当たる部分を、内包されたディスク2の外周縁に沿う曲線で切除して円弧状の欠損輪郭部3、4を形成したものである。なお、図中の矢印は光記録媒体の装着方向を示す。

【0008】

図2は図1の光記録媒体を駆動装置に装着した様子を示す図であり、図中5は駆動装置、6、7は駆動装置使用可能空間、8はカートリッジ（ローディング空間）、9はスピンドル、10はピックアップである。図1のごとき構成によれば、従来、カートリッジ不要空間であった6、7の部分が駆動装置使用可能空間となり、現存している駆動装置よりさらに小型化が可能となる。

【0009】

図3は本発明による別の実施例にかかる光記録媒体を示す平面図であり、この実施例では、同じく従来矩形状であったカートリッジの挿入側の隅角部に当たる部分を、内包されたディスク2の接線方向に沿う直線で切除して直線状の欠損輪郭部3、4を形成したものである。このような構成によっても図1の場合と同様な効果が得られる。

【0010】

本考案は上記実施例に限定されるものでなく、例えば、図1と図3の実施例を組み合わせ、カートリッジの挿入側の隅角部に直線と曲線の欠損輪郭部を持つ形状とする等、種々の変形、変更が可能である。

【0011】

【考案の効果】

以上詳細に説明したように、本考案によれば、ディスクを内包するカートリッジを、矩形状体の少なくとも1つ以上の隅角部を所要範囲にわたり切除した形状の欠損輪郭部を備えるように構成したので、カートリッジの不要空間を減らし、

駆動装置が使用可能な空間を増やすことができる。従って、駆動装置のより小型化が可能となる。